

内海に白き輝きを見た男

野崎武左衛門

● 令和3年4月22日(木) 開場13:30 開演14:00

● 能楽堂ホール **tenjin9** (テンジンナイン)
(RSKイノベティブ・メディアセンター / 岡山市北区天神町)

● **入場料 1,000円** (資料代含む)

児島郡味野村(現倉敷市児島)の農家に生まれた野崎武左衛門。1827年、順調だった足袋の製造を突然止めて塩づくりに転向。味野・赤崎浜に塩田48畝を完成させる。その後、矢継ぎ早に児島半島や邑久郡などで160畝の塩田を造成。日本一の塩田王となった。一方で、岡山藩の命により福田新田の干拓に着手。その後も干拓に励み、岡山藩きっての大地主となって苗字帯刀、5人扶持を許された。



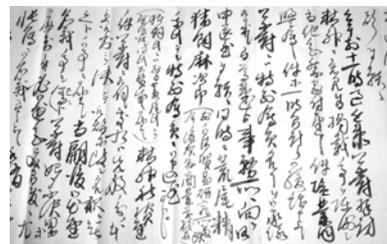
のぎきぶきじろう
野崎武吉郎

家督を継いだ孫の武吉郎は業界の取りまとめ役としても活躍し、事業をさらに生成発展させていく。晩年、所有する塩田は約200畝、耕地・宅地は約600畝にも及び、塩田地主としては全国1位、耕地地主では近畿以西3位となった。武吉郎は家訓に従い、生涯を通じて公益性のあるものに積極的に寄付。人材を育て、困窮する民を救済するなど社会貢献にも励んだ。

シンポジウムでは、特別調査チームが2年前から続けている10万点に及ぶ野崎家の業績史料の解析結果も明らかにされる。



のぎきぶざえもん
野崎武左衛門



新発見の書簡 近衛公爵との関係が新たに判明
(公財)竜王会館蔵

募集人員 80人

新型コロナウイルスの感染状況によって人数は前後する可能性があります。応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

▶シンポジウム及び入場時に感染防止対応を実施させていただきます。(一例)

*来場者のマスクの義務化(各自ご持参ください)

*37.5度以上の熱のある方、喉などに違和感のある方は入館を禁止(同居家族を含む)

*2週間以内の海外渡航歴及び風邪などの発熱や味覚障害等の症状があった方の入館を禁止(同居家族を含む)

*入場時に体温チェック・アルコール消毒の実施及び問診票の記入をお願いします。

▶上記の禁止事項や運営スタッフの指示に従わない場合、入場をお断りします。▶その他詳しくは、参加可否通知書に記載します。

Fax申し込みはこの用紙のままお申し込みください。ハガキ、e-mailでも受け付けます。

参加希望の開催日又はタイトルを必ずご記入ください。

令和3年3月30日(火) 必着

お名前(企業名・団体名)

〒

ご住所

ご連絡先(電話など)

◆申し込みは1枚(1回)につき1人とします。(複数応募不可)

fax **086-225-5046**

◆e-mail sanyohoso-zaidan@rsk.co.jp

◆ハガキ宛先 〒700-8580 RSK山陽放送内
(公財)山陽放送学術文化・スポーツ振興財団

◆問い合わせ **086-225-5531**

「参加可否」は郵便でお知らせします。



講演 1

ナйкаイ塩業
株式会社
代表取締役社長

野崎泰彦
(のぎき やすひこ)

「遺訓を守って」

野崎武左衛門から数えて7代目。1983年東京大学大学院工学系研究科博士課程（化学工学）単位取得後退学。1991年より現職。国指定重要文化財の旧野崎家住宅などを運営・管理する公益財団法人竜王会館の理事長で、江戸時代からの建物、庭園、什器美術品等を保存しつつ調査研究を進める。日本塩工業会代表理事、岡山県経営者協会会長なども務めている。工学博士。



講演 2

大阪大学大学院
文学研究科教授

飯塚一幸
(いづか かずゆき)

「塩業界の巨人 野崎武吉郎」

専門は日本近代史。特に近代化による地域社会の変容を検討することで、伝統と近代の問題を研究している。1988年京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得後退学。2010年1月より現職。博士（文学）。編著書に『明治期の地方制度と名望家』、『日本近代の歴史3 日清・日露戦争と帝国日本』など。共著に『帝国日本の移動と動員』など。



講演 3

岡山大学大学院
社会文化科学
研究科講師

東野将伸
(ひがしの まさのぶ)

「野崎武左衛門の経済・政治活動ー地域社会と岡山藩への貢献ー」

専門は日本近世史。特に、村方に残された古文書を用いて、村・地域社会・地域経済・民衆思想などを研究している。岡山大学卒業後、2017年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。2018年より現職。博士（文学）。主要論文に「近世後期の地域経済と商人」「幕末期の掛屋と年貢銀収納」など。

次回は

シンポジウム 近代岡山の偉人伝 遺産に挑んだ人々 ⑥

大衆文化を変えた男

令和3年6月17日(木)
能楽堂ホール「tenjin9」
ナイン



馬越 恭平
サッポロビール(株) 蔵

備中国木之子村(現井原市)に生まれた馬越恭平。三井物産に入社して重役などを歴任。熾烈な競争が続くビール業界にあって、1906(明治39)年時の実力者渋沢栄一や内閣を動かし、日本麦酒、札幌麦酒、大阪麦酒の3社大合同合併を実現。大日本麦酒を設立して社長に就任した。ビールがまだ大衆の飲み物ではなかった時代である。ビアホールを銀座に開いたり、芸者を動員し仕掛け花火を使ってPR。シェアを7割以上に伸ばし「東洋のビール王」と呼ばれた。馬越は井笠鉄道や東京電灯、東京商業銀行など百を超える企業に関連し、また衆議院議員、貴族院議員を務めた。



米井 源治郎
(株) ヨネイ蔵

17歳年下の米井源治郎。同郷(現津山市)で又従兄の磯野計が興した商社明治屋に入社。磯野と磯野商会(現(株)ヨネイ)を創立して機械や鉱物、雑貨の輸出入を手掛ける。1907(明治40)年、三菱財閥の総帥岩崎久弥の支援を得、居留地企業から発展したジャパン・ブルワリーを買収して麒麟麦酒を設立。専務(社長不在)兼キリンビール総代理店明治屋社長として馬越に戦いを挑んだ。

シンポジウムでは馬越恭平と米井源治郎の生涯と実業家としての評価、そして同時期に岡山人同士が繰り広げた熾烈なビール戦争についても明らかにしていく。



日本初のビアホール(東京・銀座)
1899年 サッポロビール(株)蔵



キリンビール 横浜山手工場
1907年頃 (株)ヨネイ蔵

出演 作家、ビール文化研究家 端田 晶

絶賛発売中!

お求めは、お近くの書店で!!



「岡山蘭学の群像
1・2・3」

定価 1・2 本体 1400円+税
3 本体 1600円+税



「慈愛と福祉
岡山の
先駆者たち 1・2」

定価 本体 各1600円+税